



150回記念ワイン会は
エノテカ・ピンクオリ
東京店



トスカーナ・シエナの
国立エノテカでの
ワイン・テイasting



トスカーナでぶどうの収穫を体験
(筆者)

筆者中央。アンチエイジングで有名な白澤卓
二教授もメンバー（左から3人目）



150回を記念してトスカーナワイ
ンツアーを実施

FILE NO.4

12年で150回の ワイン会を主宰

坂間明彦

1998年5月25日から毎月開催しているワイン会“WINET”が11月29日に150回目を迎えました。スペシャルな記念ワイン会は、特別ゲストに(社)日本ソムリエ協会最高技術顧問の剣持春夫さんをお迎えし、「エノテカ・ピンクオリ東京店」で開催しました。

これに先立ち10月には8日間のワインツアーを企画。宿泊は、トスカーナのプラート市の「ヴィラ・ルチェッライ」で、このヴィラはメンバーの友人ジョヴァンニさん(メディチ家と並ぶ名門のルチェッライ家の当主)の邸宅です。

同氏所有のぶどう園で収穫を手伝い、お昼にはヴェンデンミア(収穫祭)にも参加しました。シエナ市の国立エノテカ(イタリア唯一のワイン博物館)では日本人ソムリエによるワインテイasting講座を受講。ワインの修行で来ている鈴木暢彦さんは剣持春夫マスターソムリエからワインを学ばれたということで、私とは兄弟弟子だったというサプライズもありました。また、パローネ・リカーソリなど有名ワイナリーを訪ね、ワインの研鑽を積み、フィレンツェにある三つ星レストラン「エノテカ・ピンクオリ本店」ではゴージャスなワイン会も行いました。

ワインとの出会い、人との出会い

ワインとの出会いは学生時代の29年前に遡ります。中央大学のワイン同

好会に所属していた私は、ワインとワインの文化、歴史、さらにはワインが「素晴らしい出会いを演出する不思議なお酒」であることに興味を持ちました。

当時は、ワインに関する本は珍しく、浅田勝美 JSA 名誉顧問の「ワインの知識とサービス」が唯一の教科書でした。同好会に1冊しかない貴重なこの本で、ワインの基礎知識を勉強しました。

大学卒業後はワインに力を入れ始めていたキリン・シーグラム(株)に入社。ワインの営業、マーケティング、研修などを担当する中で、更なる知識や教養、人脈を築くことができました。

ワインを楽しむ 異業種交流会からスタート

会の目的は、“WINE、INTERNET、NETWORK”をコンセプトに、ワインを楽しみながら異業種交流をすることです。会の愛称“WINET”(ワイネット)もそこに由来しています。

第1回目は、現在の会社に転職してちょうど3年目の時でした。フォトグラファの奥山真詩さんとともに始め、今回の150回目まで、毎月欠かさずに開催してきました。当初は、参加者は5~6名ぐらいでしたが、最近は30名ほどです。今では案内メールを、毎回1000名を超すメンバーに送信するほどに成長しました。

Profile

坂間明彦(さかま・あきひこ)
中央大学でワイン同好会に所属しワインに出会う。キリン・シーグラム入社。ワインマーケティング部でB&G、G.H. マム、サンデマンなど担当。1988年ワインアドバイザー取得。16年前に現在の生命保険会社に転職。ワイン愛好家の立場でワインの素晴らしさを伝えている。会員 No.12359

会の基本テーマは、料理とワインのマッチングです。ワインはあまり凝った選び方はしていません。料理はフレンチ、イタリアン、日本料理と毎回様々ですが、料理に合うワインを、産地やぶどう品種にこだわらずに楽しんでいます。レストランは参加者の紹介で選ぶケースが多く、必ず紹介者と事前に訪問しワイン会の趣旨を説明しています。ですからいつも感動的なワイン会になります。

主宰者の私は「もちろん毎回参加しています!」と言いたいところですが、1回だけインフルエンザで欠席したことがありました。この時は妻が代理を務めました。結婚前に洋酒メーカーでワインレディをしていた妻は立派にワイン会を盛り上げたそうで、私より妻にやってもらった方がいいと評判でした。

夢はワイナリーのオーナー

将来の夢はワイナリーを持つことです。実現の暁にはぜひワイン会の仲間を招待したいと思っています。WINETはこれからも続けて開催します。順調に行けば、200回目は2015年1月に、300回目は2023年5月に迎えます。皆さん、楽しみにしてください!

* WINET ホームページ

<http://www.b-info.jp/winet>

*鈴木暢彦さんブログ「イタリアワイン
エノテカイタリアーナ」

<http://blog.livedoor.jp/nobufico/>